

2020年3月の行事予定表

1	日	礼拝式、臨時教会総会	16	月	
2	月		17	火	
3	火		18	水	聖書の学びと祈り会
4	水	聖書の学びと祈り会	19	木	祈禱会
5	木	祈禱会	20	金	朝の祈り会
6	金	朝の祈り会、世界祈禱日(ルーテル)	21	土	
7	土		22	日	礼拝式。
8	日	伝道礼拝式(証し)、教会役員会、奉仕の日	23	月	
9	月		24	火	
10	火		25	水	聖書の学びと祈り会
11	水	聖書の学びと祈り会	26	木	祈禱会
12	木	祈禱会	27	金	朝の祈り会、市内教職者会(ナザレン)
13	金	朝の祈り会	28	土	
14	土		29	日	礼拝式、教会大掃除(カーペット張替え、1, 2階、会堂内を除く)
15	日	礼拝式、各会の例会日です。	30	月	
			31	火	

教会月報

2020年3月
No.347

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

新型コロナ・ウイルス

「ある村に入ると、重い皮膚病を患っている10人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、声を張り上げて、『イエスさま、先生、どうか、私たちを憐れんでください。』と言った。」ルカ福音書17:12-13

日本ナザレン教団が、新型コロナウイルス肺炎(COVID-19)への対応

今世紀最悪の感染症の流行に際し、礼拝の守り方について、JNCM(ジャパンナザレンコンパッションネットワークミニストリーズの略)としての指針の概略を今月の月報の巻頭言といたします。

現在の状況

多くの感染症専門家は、2月初めには国内で感染の流行が始まっていると考えています。現時点での患者数は氷山の一角の数字に過ぎません。

地域の流行を抑えるための有効策は、大勢が集まる機会を避けることが奨励されています。

流行時の礼拝の守り方

既に流行が始まっている地域では特に注意が必要です。また、各自が出来るだけご自身の体を守ることに注意を払い、公共交通機関を使用しないように努めましょう。マスクをつけ、アルコール消毒に努め、人との接触(2m以上離れる)に注意する事。

もし、礼拝の参加者が感染していたことが判明したら、礼拝式は14日間中止すること。

以上簡単ですが感染への対応をお知らせいたします。

主の祝福を求めて

今こそ礼拝、教会について主の語ら掛けに耳を傾けて下さい。同時期に同じ場所に集わずとも、キリストの体(教会)の一員である事を実感する礼拝をどう確保できるか、皆で祈り求め、真実の礼拝を捧げる幸いを味わう機会となりますようお祈りしましょう。

牧師 永松 清

3月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます

編集後記

例年にない温かな冬となっていますが、いかがお過ごしですか？

今月はE姉のお証し、T姉の闘病のお証し、そしてF姉のコーラス活動報告をお届けしました。

いま、新型コロナウイルスの報道が連日マスコミを通じて届いています。この神様からの試練を乗り越える信仰を持ち、何が出来るかを冷静に考えたいと思います。

※ナザレン教団江上 環師(教団理事長・JNCM委員長)よりの「新型コロナウイルス肺炎への対応」が配布されました。熟読しましょう。

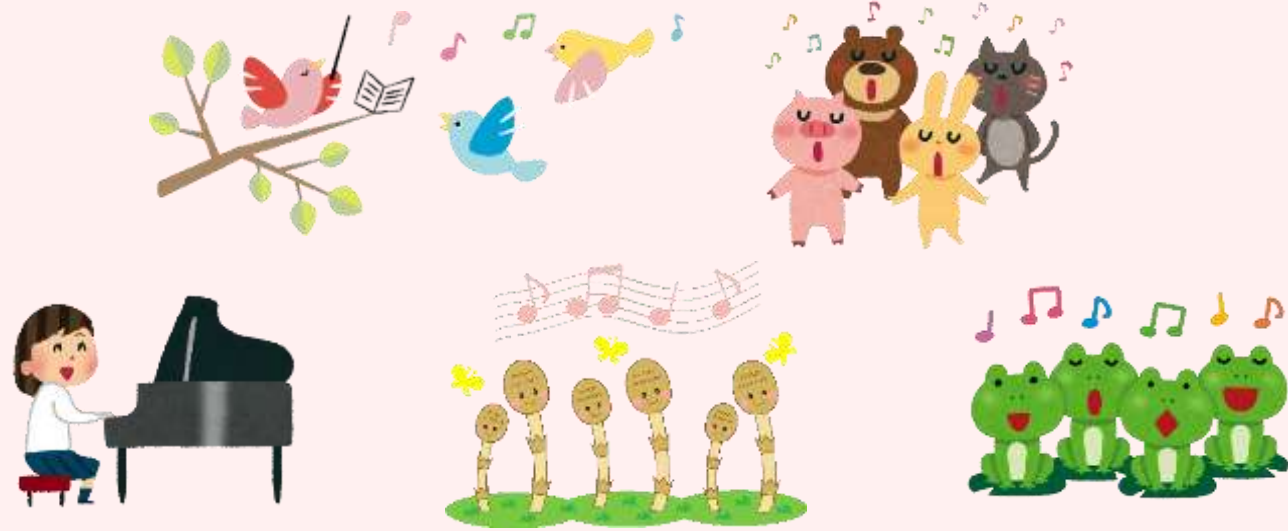
(編集部)

《つしまひがしーず》活動報告 K. F. 姉

去る2月16日、O姉、K兄と私の3人で理大クリスタルコールと共演してきました。
昨年と同じチャリティコンサートで、音楽に限らないバラエティに富む出し物が名物です。今回も時代装束をまとった詩吟集団、子どものキレッキレのヒップホップダンス、本場スペイン人のフラメンコ群舞などがありました。
私たちはNHKの歴代朝ドラの曲のテーマ曲と宮崎アニメ「千と千尋の神隠し」から合わせて4曲を歌いました。歌だけではなく、ピアノとバイオリン、チェロのすばらしい伴奏つきです。
歌の合間の長めの間奏ではあまりの美しさに聞きほれてしまって、歌に入るのを忘れるほどでした。理大の皆さんにフォローしていただいて、終始楽しんで歌えました。

指揮者の指導の仕方、発声練習、声を出すイメージ、合唱アレンジの方法など、学ぶことも多かったコンサートでした。またこういう機会があれば、積極的に参加していきたいと思えます。

(※つしまひがしーず…K.F.姉・K.O.姉らによるコーラスグループ)



寄稿《50年ぶりの入院》

D. T. 姉



昨年末12月25日、急な下血で病院へ。検査の結果、“出血性胃潰瘍と重い貧血”とのことで2週間の入院を告げられました。えっ！自分としては三日分の入院仕度しか用意してなかったのに、付き添ってくださった姉妹にすっかりお世話になってしまいました。50年ぶりの入院という事態に観念し、主の御心はどこにあるのかを祈り求めつつストレッチャーに乗せられて病室へ。四人部屋の四人目としての生活が始まりました。最初の夜に不思議な心もちになったのをはつきり覚えています。

「イエス様、病む人々の傍に居てくださったあなたのお気持ちが少しわかる気がします。今夜から私をここに居らせてくださってありがとうございます。この部屋の三人の方々のために祈れる幸いです。感謝します。」と祈りました。自分でも不思議でした。私は一人暮らしなので、四人部屋なんて一日だって我慢できないはずなのに、静かな平安に満たされた入院生活をスタートできたのです。フィリピ書のおりでした。『何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなた方の願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなた方の心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。』

4章6、7（新改訳）

はじめの安静絶食から、重湯、お粥、普通食、とレベルアップしていき、お正月のおせちに似せたメニューに驚いたほどの充実した病院食でした。その後、順調に回復し十日目の1月3日に退院できました。それもこれも、永松先生ご夫妻はじめ教会皆様のお祈りのお蔭と感謝がこみあげます。現在も治療継続中ですが、今回の病気で与えられたお恵みと主からの諭しを今後に生かしつつ、70歳代を歩んでいきたいと思えます。



(左写真 ニューヨーク物理療法リハビリテーション研究所の壁にある有名な《病者の祈り》)

2月伝道礼拝証し

K. E. 姉

ある雑誌で牧師が書かれたことに、マザーテレサが中東での検問所に『あなたは何か武器を持っていますか？』と問われた時、『私には祈りがあります』と答えたという。祈りには武器にも匹敵、いや超えるのかな？とその時思いました。

もうすぐ母を送って三年になりますが、直後は寂しかったけど不出来の娘にとって母からの重圧や介護からの解放で自由になったつもりでいました。

やがて田植時期、農繁期の時期がきました。農作業の段階で地域の人達との協力は必須条件ですが、地区の代表の方に不当な仕打ちを受け悶々とした生活を送っていました。市役所の人権委員会に訴えようかとも考えていました。その渦中であって祈禱会で涙ながらに訴えました。祈りの友からローマ12:17~21を示されました。『だれに対しても悪に悪を返さず、全ての人の前で善を行うように心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる』と書いてあります。「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。』
祈ってもらい、また他者を祈りながら知らない間に心が平安になっていくのがわかりました。

そして私は少しずつ元気に明るくなっていきました。まさにみ言葉による『祈りの力』です。そしてフィリピ4:6~7『どんなことでも思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。』

今、私は燃えています。礼拝の前の聖書研究です。希望誌をテキストに司会者の丁寧な説明、地図、歴史的背景、あの世界史の授業で淡々と説明され語呂合わせのように覚えたバビロン捕囚、ミカ書は百年も前にバビロン捕囚について預言されている。聖書について藤本みつる先生は創造科学といわれているが預言どおり起きている事実をみると架空では無いのではないか？アラビアの砂漠を背景にパノラマ

の様な風景を想像し、ロマンを感じる今日この頃です。イエス様は十字架の贖いによっていつも私達のそば、小さき者に寄り添っておられます。サタンが牙を問いでいます。1月に白内障の手術を受け、聖書は勿論、小さな字も容易に見えるようになって辞書を引く楽しさも加わりました。心のすき間を開けないように、聖書を読み、み言葉を貯えて日々祈りつつ邁進したいと思えます。

